

Ryukoku University



RYUKOKU
UNIVERSITY

ルーブリック作成ガイドブック

○ ルーブリックとは

1. ルーブリックの種類（策定単位）と活用目的
2. ルーブリック活用の意義
3. ルーブリック活用のタイミング
4. ルーブリック活用の前提
5. コモン・ルーブリックの活用

○ 龍谷大学コモン・ルーブリック

龍谷大学 ルーブリック作成ガイドブック

○ ルーブリックとは

ルーブリックとは学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点】と、観点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した【評価の基準】から構成される評価ツールを指します。

(図1) ルーブリック記載例

	評価項目	観点の説明	評価の基準 (例示は4段階の場合)			
			4	3	2	1
評価の観点	評価項目1					
	評価項目2					
	評価項目3					
	評価項目4					

1. ルーブリックの種類(策定単位)と活用目的

ルーブリックにはいくつかの種類(策定単位)があります。まずは課題ルーブリックです。これは授業内で提示するレポートやプレゼン等の課題に対して活用できるルーブリックを指します。

次に授業ルーブリックです。これは授業科目の目標をルーブリックで示したものです。最後にカリキュラムルーブリックです。これはカリキュラム全体に対して作成したルーブリックです。

ルーブリックは、授業における様々な場面で活用することができます。例えば、レポート課題に対するルーブリックを活用する場合、課題を示すタイミングで学生にルーブリックを示すことにより、学生は、評価の観点や基準をあらかじめ把握することができます。課題に取り組む際にそれらを意識しながらレポートの作成に取り組むことができます。発表の際も同様に、発表の前にルーブリックを示すことにより、学生は発表において注意すべき点や配慮すべき点を事前に確認することができます。

さらに、評価の際には、例えば、ルーブリックにおいて該当するレベルに印やコメントをつけるなどし、学生に返却することにより、学生自身が学習成果を把握することができます。また、学生の自己評価や学生同士の評価においてルーブリックを活用する場合には、教員は学生自身の評価を把握することもできます。このように、学生と教員の双方にとって、事前にその授業ではどのような学習成果が求められているのかを把握することができ、また、事後にはどのような学習成果が達成されたかを可視化することができます。

(1) 課題ルーブリック

授業内で提示するレポートやプレゼン等の課題に対して活用できるルーブリックのこと。

- ・ 策定単位：課題単位
- ・ 目的：① 学生の成績評価のため
② 学生自身の到達度確認のため
- ・ 活用方法：レポート等の課題について、ルーブリックを用いて具体的な達成水準を事前に明らかにすることにより、何を求めているかを明確にする。
レポート返却時に、採点結果とともにルーブリックの評価結果（表を添付することにより、学生が自身の達成できている部分とそうでない部分を具体的に把握でき、次の学習へつなげるためのきっかけになる。

(2) 授業ルーブリック

授業科目の目標を示したルーブリックのこと。

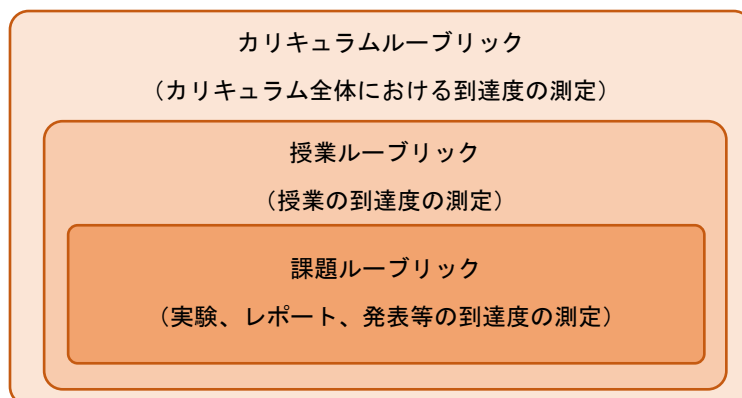
- ・ 策定単位：授業科目単位
- ・ 目的：学生の成績評価のため、学生自身の到達度確認のため
- ・ 活用方法：各授業科目の到達目標について、ルーブリックを作成し、具体的な達成水準を事前に明らかにし、厳格な成績評価の実施や学生の学習意欲の向上につなげる。
また、初年次対象の基礎的な科目のように、複数の教員が担当する授業科目において、担当教員同士で協議の上、ルーブリックを活用することにより、成績評価に関する共通理解を構築し、評価の水準を高める。

(3) カリキュラムルーブリック

カリキュラム全体に対して作成したルーブリックのこと。

- ・ 策定単位：学位プログラム単位
- ・ 目的：DP の到達度の把握のため
- ・ 活用方法：「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に定められた資質・能力を測定するためのルーブリックを作成し、同方針に定められた特定の資質・能力の到達度について、学生・教員が把握できるようにする。また、学修成果の可視化の観点から、一人一人の学生が自らの学修成果を説明することを可能にする。

(図2) ルーブリックの種類と構造



本ガイドブックでは、教員の皆様に活用いただけるよう、課題ルーブリックのテンプレート（コモン・ルーブリック）を提供しています（巻末）。
以下は主に課題ルーブリックを想定した内容になっています。

2. ルーブリック活用の意義

<教員側>

- レポートやプレゼンテーションなど、学んだ知識やスキルを統合して使うことが求められる課題に関して、評価を行うために有効となる。
- アクティブラーニングやオンライン授業等、従来型の一斉テストの実施が難しい状況において、レポートやプレゼンについての評価を行う場合、ルーブリック評価表を用いることで時間・労力の軽減につながる。
- 複数人数で担当する科目において、共通の課題を課す場合、ルーブリックを活用することで、ある一定の評価の観点と基準に基づいた評価をすることにより、公平性を担保し、評価の水準を高めることができる。

<学生側>

- 教員から、あらかじめ評価の観点や評価の基準を提示されることで、レポートやプレゼンテーションにおいて何が求められているのかを具体的に把握できる。
- 現在の自分のレベルを確認し、より高い目標を達成するために何が必要になるのかを主体的に考えることにつながる。結果として、成果物がより優れたものになる可能性が高まる。

3. ルーブリック活用のタイミング

(1) レポート評価に活用する場合

レポート課題を出す際に、学生にルーブリックを配付します。学生は、評価の観点や基準を参照することで、執筆すべき点や完成の度合いを確認したうえでレポートを執筆できます。

(2) プレゼンテーション評価に活用する場合

プレゼンテーションをする前に、学生にルーブリックを配付します。学生は、プレゼンテーションで発表すべき点や配慮すべき点を確認できます。また聞き手は、ルーブリックをもとに発表学生のプレゼンテーションを評価できます。

(3) 評価時の活用方法

評価者は、提出された課題について、ルーブリックの該当する部分を丸で囲みます。学生が自分で採点したルーブリックをレポートと共に提出することで、教員は学生の自己評価を確認できます。

4. ルーブリック活用の前提

- ✓ 評価の観点を具体的な文章で表現できることがルーブリック活用の前提条件となります。
- ✓ ルーブリックを適切に活用するためには、学生が評価の観点、評価の基準を十分に理解する必要があります。そのため、ルーブリックを利用する前に学生に利用方法を説明する必要があります。
- ✓ 本ガイドブックで例示しているコモン・ルーブリックは、汎用性を持たせるために「十分な」「明確な」「効果的」といった表現を用いていますが、授業の目的に応じて学生が理解しやすい具体的な文言を用いるとより効果的です。
- ✓ ルーブリックはあらかじめ設定した観点や尺度を評価するため、評価項目が限られてしまうという課題がありますのでご注意ください。学生のパフォーマンスが良すぎて、観点や尺度に収まりきれない場合もあります。

5. コモン・ルーブリックの活用

学修支援・教育開発センターでは、課題ルーブリックのテンプレート（コモン・ルーブリック）を開発・提供していきます。

次ページ以降に掲載していますので、ご参照ください。

また、加工可能な Excel 版は、学修支援・教育開発センターの Web ページ（授業で活用できる教育支援ツール）に掲載しますので、適宜ダウンロードしてご活用ください。

なお、コモン・ルーブリックは教員のみなさまに使用を義務づけるものではなく、ご自身の自主的な FD 活動の一環として、活用して頂くためのものです。

内容を取捨選択し、自由に修正・加工して使用することが可能ですので、これらを参考にしながら、授業での評価や学生へのフィードバック等において是非ご活用ください。

○ 龍谷大学コモン・ルーブリック（課題ルーブリック）

教員の皆様に活用いただくことを想定し、課題ルーブリックのテンプレート（コモン・ルーブリック）を例示いたします。

上述のとおり、テンプレート（ひな型）としての提案であり、先生方ご自身の裁量で評価の観点や評価基準を改変・修正した上で使って頂くことで、その有用性や利便性が高まると考えています。ルーブリック自体が自由度の高いものですので、ご自身の都合の良い形に適宜カスタマイズしてご使用頂ければ幸いです。

① プレゼンテーション・ルーブリックの例

評価の観点	観点の説明	評価の基準			
		4	3	2	1
主張・論点の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
視覚情報・資料の扱い	視覚的な情報（図表、イラスト等）や資料（配布物等）を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
プレゼンテーション全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話しているか。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している	筋道の立っていない順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。
発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えているか。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。

（出典：関西大学『ルーブリックの使い方ガイド』）

②レポート・ルーブリックの例

評価の観点	観点の説明	評価の基準			
		4	3	2	1
テーマ設定	適切なテーマ設定をしているか。	課題に応じた適切なテーマ設定が簡潔かつ明確になされている。	課題に応じたテーマ設定がなされている。	課題に応じたテーマ設定がなされているが、工夫の余地がある。	課題に応じたテーマが設定されていない。
クリティカル・シンキング	批判的考察がなされているか（クリティカル・シンキングの観点）。	先行研究や事例、データなどを基に、批判的考察が明確かつ十分になされている。	先行研究や事例、データなどを基に、批判的考察がなされている。	批判的考察はなされているが、先行研究や事例、データなどに基づいていない。	批判的考察がなされていない。
根拠の成立	主張（考察）するための根拠（データや先行研究等）が示され、分析できているか。	主張したい論点に対する根拠が明確かつ適切に示されて、高度で客観的な分析ができている。	主張したい論点に対する根拠が適切に示され、客観的な分析ができている。	主張したい論点に対する根拠が示されているが、客観的な分析ができている。	主張したい論点に対する考察が示されておらず、客観的な分析ができている。
論理的な構成	論理的に構成されているか（ロジカル・シンキングの観点）。	主張したい論点に対して、構造的に整理されており、一貫性と納得性（説明力）のある構成となっている。	主張したい論点に対して、構造的に整理されているが、一貫性や納得性（説明力）の点で改善の余地がある。	主張したい論点に対して、論理的に構成しようとしていることは認められる。	主張したい論点に対して、論理的に構成されていない。

(参考) ルーブリック作成の点検用ルーブリック

このルーブリックは、自ら作成したルーブリックを点検するためのルーブリックです。

	十分に使えるレベル	試用に耐えるレベル	もう少し工夫が必要なレベル
評価指標が到達目標の一つ、あるいは複数に対応している。	評価指標が測るべき到達目標に対応し、何回かの試行を経て、到達目標を測る上で必要なパフォーマンスが網羅されている(2点)。	評価指標が測るべき到達目標をより詳しくパフォーマンスとして記述してあるが、それが必要十分かどうかは分からない(1点)。	評価指標が測るべき到達目標に無関係に設定してある(0点)。
評価指標が求めるパフォーマンスを重複なく表現している。	評価指標が求めるパフォーマンスは独立している(2点)。		複数の評価指標に重複した内容が書かれていて、どこで採点するかに困る(0点)。
特徴の記述は学習の指針として分かりやすい。	学習の指針として明確に理解でき、基準の違いも明示されている(5点)。	何ができるようになることが求められているかは分かるが、基準の違いが分かりにくい(2点~4点)。	学習者が読んでも何ができるようになるかが分からない(1点)。
特徴の記述に「まったく」-「非常に」などの用語を極力用いず、適切に特徴的なパフォーマンスを記述している。	特徴の記述がすべて適切なパフォーマンスで表現されていて、基準の違いが明確に理解できる(5点)。	一部に基準の違いが分からない表現がある(2点~4点)。	特徴の記述が、すべて「まったく」-「非常に」等の比較を表す言葉で表現されていて、基準の違いが分からない(1点)。
評価基準は採点しやすく設定してある。	高く評価したいパフォーマンスを正當に高く評価するとともに、基本的な間違いを含むパフォーマンスを適切に低く評価している(5点)。	一部に不適切な配点があり、採点結果が歪むことがある(2点~4点)。	配点の方針が不明確で、高く評価したい評価尺度、評価基準がまったく、あるいはほとんど読み取れない(1点)。
すべての評点の合計が配点と一致している。	すべての評点の合計が採点と配点と一致している(1点)。		すべての評点の合計が採点の配点を超過している/足りない(0点)。

「ルーブリックって何？」沖 裕貴(2016年2月)を一部改変

参考文献：

ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ(佐藤浩章監訳)(2014)『大学教員のためのルーブリック評価入門』,玉川大学出版部

沖 裕貴(2016)『ルーブリックって何?』

関西大学 教育推進部教育開発支援センター(2016)『ルーブリックの使い方ガイド』

三重大学 地域人材教育開発機構(2020)『学習評価ガイドブック』

横浜国立大学 大学教育総合センター(2015)『授業別ルーブリック作成マニュアル』

法政大学 教育開発支援機構FD 推進センター(2018)『ゼミ活動等を対象とした学生向けルーブリック活用の手引き』

龍谷大学 ルーブリック作成ガイドブック

2021年11月

編集・発行 龍谷大学 学修支援・教育開発センター
